

米国農務省穀物等需給報告(2025年5月12日発表のポイント)

令和7年5月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、5月12日(現地時間)、2025/26年度の1回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。
-2025/26年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:28億9,676万トン(対前年度比 2.0%増)
- ② 消費量:29億735万トン(対前年度比 1.3%増)
- ③ 期末在庫量:7億5,614万トン(対前年度比 1.4%減)
期末在庫率:26.0%(対前年度差 0.7ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦:カザフスタン、豪州、パキスタン、米国で生産量が減少するものの、EU、インド、英国、中国、アルゼンチン、ロシア、カナダで増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高を記録する見通し。なお、米国の生産量は収穫面積の減少により前年度から3%減少する見込み。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:8億852万トン(対前年度比 1.1%増)・EU、インド、英国等で増加、カザフスタン、豪州等で減少
- 2 消費量:8億800万トン(対前年度比 0.5%増)・インド等で増加
- 3 期末在庫量:2億6,573万トン(対前年度比 0.2%増)・インド、米国等で増加、中国等で減少
期末在庫率:32.9%(対前年度差 0.1ポイント減)

とうもろこし:タンザニア、カナダで生産量が減少するものの、米国、ウクライナ、アルゼンチンで増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高を記録する見通し。なお、米国では収穫面積及び単収の増加により前年度から6%増加し、作付面積は過去10年で最高となる見込み。アルゼンチンとブラジルでは収穫面積の増加、ウクライナでは単収の回復と収穫面積の増加により生産量が増加する見込み。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:12億6,498万トン(対前年度比 3.6%増)・米国、ウクライナ、アルゼンチン等で増加
- 2 消費量:12億7,443万トン(対前年度比 1.9%増)・中国、米国、ブラジル等で増加
- 3 期末在庫量:2億7,784万トン(対前年度比 3.3%減)・米国等で増加、中国、ブラジル等で減少
期末在庫率:21.8%(対前年度差 1.2ポイント減)

コメ(精米):インドネシア、ブラジルで生産量が減少するものの、インド、バングラデシュ、中国で増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高を記録する見通し。なお、米国では収穫面積及び単収の減少により前年度から1%減少する見込み。インドは収穫面積の減少により生産量の増加幅は緩やかになるものの、10年連続で史上最高を更新する見込み。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:5億3,871万トン(対前年度比 0.2%増)
- 2 消費量:5億3,875万トン(対前年度比 1.2%増)・インド等で増加
- 3 期末在庫量:1億8,507万トン(対前年度比 0.02%減)
期末在庫率:34.4%(対前年度差 0.4ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

米国、カナダ、アルゼンチン、ウクライナ、ウルグアイで生産量が減少するものの、ブラジル、パラグアイ、ロシア、中国で増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高を記録する見通し。なお、米国の生産量は収穫面積の減少により前年度から減少、ブラジルは史上最高を記録、アルゼンチンは大豆からとうもろこしに作付けがシフトすることにより前年度から減少する見込み。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:4億2,682万トン(対前年度比 1.4%増)・ブラジル等で増加
- 2 消費量:4億2,405万トン(対前年度比 3.4%増)・中国等で増加
- 3 期末在庫量:1億2,433万トン(対前年度比 0.9%増)
期末在庫率:29.3%(対前年度差 0.7ポイント減)

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2025年5月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		2,822.56	2,839.48	2,896.76	2.0%	-	2,299.4
消費量		2,819.71	2,868.91	2,907.35	1.3%	-	2,287.1
期末在庫量		796.17	766.74	756.14	▲ 1.4%	-	480.6
期末在庫率		28.2%	26.7%	26.0%	▲ 0.7	-	21.0%
小麦							
生産量		791.95	799.71	808.52	1.1%	-	660.8
消費量		797.82	803.62	808.00	0.5%	-	680.3
期末在庫量		269.11	265.21	265.73	0.2%	-	180.6
期末在庫率		33.7%	33.0%	32.9%	▲ 0.1	-	26.5%
粗粒穀物							
生産量		1,506.91	1,502.05	1,549.52	3.2%	-	1,162.6
消費量		1,497.39	1,532.68	1,560.60	1.8%	-	1,141.9
期末在庫量		347.06	316.42	305.34	▲ 3.5%	-	176.1
期末在庫率		23.2%	20.6%	19.6%	▲ 1.1	-	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,230.52	1,221.28	1,264.98	3.6%	-	903.3
消費量		1,220.13	1,250.06	1,274.43	1.9%	-	880.6
期末在庫量		316.07	287.29	277.84	▲ 3.3%	-	145.5
期末在庫率		25.9%	23.0%	21.8%	▲ 1.2	-	16.5%
コメ(精米)							
生産量		523.70	537.72	538.71	0.2%	-	476.0
消費量		524.51	532.61	538.75	1.2%	-	464.9
期末在庫量		180.00	185.11	185.07	▲ 0.02%	-	123.9
期末在庫率		34.3%	34.8%	34.4%	▲ 0.4	-	26.6%

【大豆】

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)		前月差
生産量		396.93	420.87	426.82	1.4%	-	268.9
消費量		383.85	410.29	424.05	3.4%	-	265.4
期末在庫量		115.30	123.18	124.33	0.9%	-	58.3
期末在庫率		30.0%	30.0%	29.3%	▲ 0.7	-	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2025)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2025年5月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (予想)	2025/26		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		458.90	451.56	475.22	5.2%	-	353.0
消費量		365.43	369.89	371.17	0.3%	-	317.1
輸出量		86.80	94.15	99.20	5.4%	-	51.6
期末在庫量		68.09	63.48	75.27	18.6%	-	44.2
期末在庫率		15.1%	13.7%	16.0%	2.3	-	12.0%
小麦							
生産量		49.10	53.65	52.28	▲ 2.6%	-	61.3
消費量		30.16	31.48	31.54	0.2%	-	37.8
輸出量		19.24	22.32	21.77	▲ 2.5%	-	27.5
期末在庫量		18.95	22.90	25.12	9.7%	-	19.5
期末在庫率		38.4%	42.6%	47.1%	4.6	-	29.9%
粗粒穀物							
生産量		402.88	390.86	415.98	6.4%	-	285.3
消費量		330.35	333.01	334.17	0.3%	-	275.5
輸出量		64.45	68.82	74.44	8.2%	-	20.7
期末在庫量		47.87	39.15	48.64	24.2%	-	23.5
期末在庫率		12.1%	9.7%	11.9%	2.2	-	7.9%
とうもろこし							
生産量		389.67	377.63	401.85	6.4%	-	273.2
消費量		321.92	321.07	324.75	1.1%	-	263.0
輸出量		58.23	66.04	67.95	2.9%	-	18.5
期末在庫量		44.79	35.95	45.73	27.2%	-	20.9
期末在庫率		11.8%	9.3%	11.6%	2.4	-	7.4%
コメ(精米)							
生産量		6.92	7.05	6.96	▲ 1.3%	-	6.3
消費量		4.92	5.40	5.46	1.1%	-	3.8
輸出量		3.12	3.02	2.99	▲ 1.0%	-	3.4
期末在庫量		1.27	1.43	1.51	5.6%	-	1.2
期末在庫率		15.8%	17.0%	17.9%	0.9	-	16.1%

【大豆】

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (予想)	2025/26		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		113.27	118.84	118.12	▲ 0.6%	-	82.8
消費量		65.58	68.96	70.76	2.6%	-	48.6
輸出量		46.13	50.35	49.40	▲ 1.9%	-	36.1
期末在庫量		9.32	9.53	8.03	▲ 15.7%	-	3.8
期末在庫率		8.3%	8.0%	6.7%	▲ 1.3	-	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2025)

「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向 (2025年)

● 小麦 : 5.27 ドル/bu (前年同時期の価格 : 6.06 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2025 年 5 月第 1 週末のセツルメント価格】

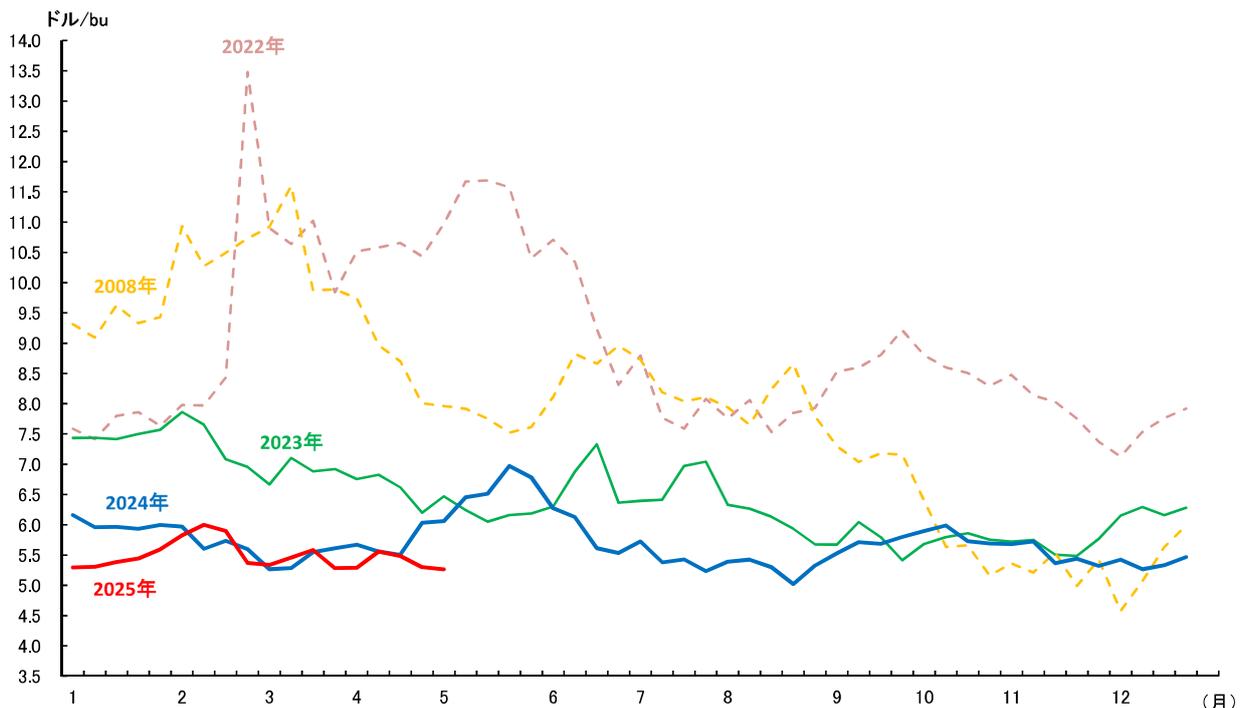
(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日))

小麦は、12月末、5ドル/bu 台半ばで推移。1月に入り、ドル高や米国産の低調な輸出等を受けて5ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、低温による米国産冬小麦の作柄悪化懸念や大豆及びとうもろこしのつれ高等を受けて値を上げ、1月末現在、5ドル/bu 台半ばで推移。

2月に入り、米国の対メキシコ関税措置の延期により報復関税に伴う米国産の需要低下懸念が和らいだことや米国や黒海地域の冬小麦の作柄に対する懸念等を受けて6ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国や黒海地域の冬小麦の作柄に対する懸念が和らいだことや3月4日に予定されている米国の対メキシコ関税措置に対する報復関税の可能性に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて値を下げ、2月末現在、5ドル/bu 台半ばで推移。

3月に入り、米国の関税措置による報復関税に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて5ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、米国小麦産地の乾燥予報や 2025/26 年度ロシア産小麦の収穫見通しが下方修正されたこと等を受けて5ドル/bu 台後半まで値を上げた。その後、ロシア・ウクライナの停戦により両国からの輸出が安定するという期待や米国及びロシアの小麦産地の降雨予報等を受けて値を下げ、3月末現在、5ドル/bu 台半ばで推移。

4月に入り、米国の関税措置による報復関税に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて5ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、米国小麦産地の乾燥等による冬小麦の作柄懸念やドル安等を受けて5ドル/bu 台半ばまで値を上げた。その後、米国や黒海地域の天候改善や欧州市場の下落等を受けて値を下げ、4月末現在、5ドル/bu 台前半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年及び2022年と直近3年の価格の推移

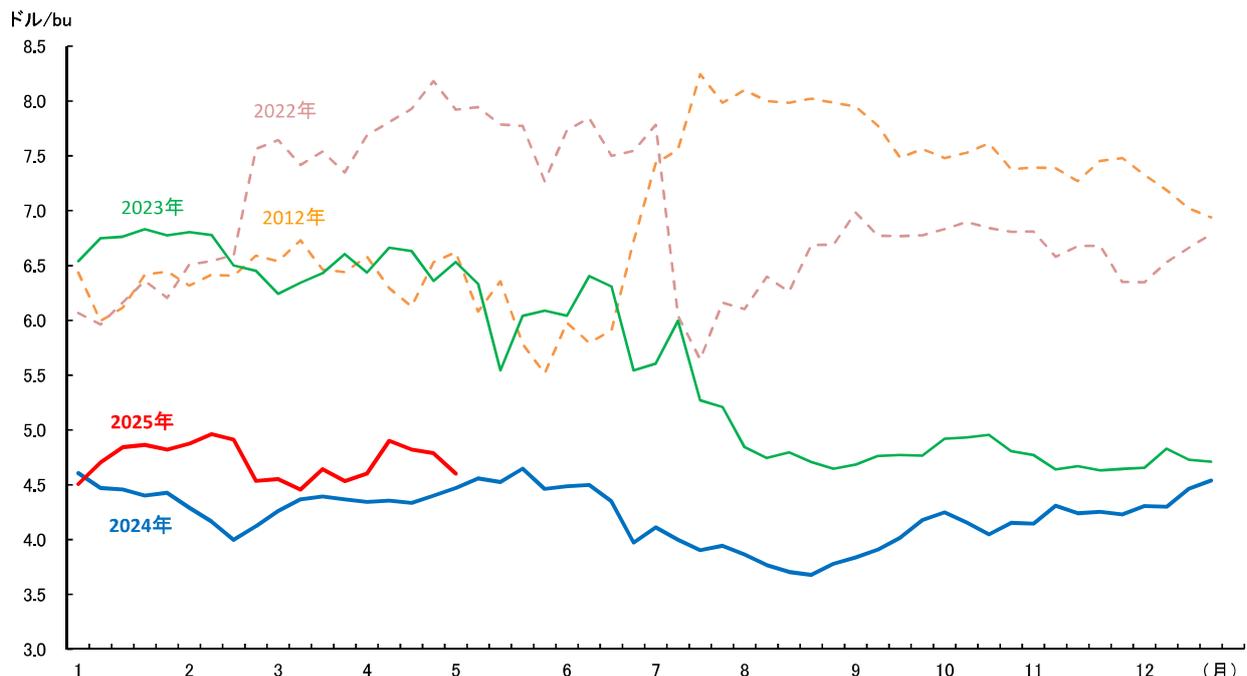
- とうもろこし：4.61 ドル/bu（前年同時期の価格：4.47 ドル/bu）
 【価格は、シカゴ商品取引所における 2025 年 5 月第 1 週末のセツルメント価格】
 （史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)）

とうもろこしは、12 月末、4 ドル/bu 台半ばで推移。1 月に入り、アルゼンチンの高温乾燥及び米国農務省需給報告での米国産生産量の引下げ等を受けて値を上げ、1 月末現在、4 ドル/bu 台後半で推移。

2 月に入り、米国の対メキシコ関税措置の延期により報復関税に伴う米国産の需要低下懸念が和らいだことやアルゼンチンの高温乾燥等を受けて 5 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国アウトックフォーラムで米国産の作付面積増加見通しが発表されたことや 3 月 4 日に予定されている米国の対メキシコ関税措置に対する報復関税の可能性に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて値を下げ、2 月末現在、4 ドル/bu 台半ばで推移。

3 月に入り、米国の対メキシコ関税に対するメキシコの報復関税の可能性による米国産の需要低下懸念等を受けて 4 ドル/bu 台前半近くまで値を下げた。その後、米国の対メキシコ関税について、米国・メキシコ・カナダ協定に準拠した製品が対象外となり、米国産の需要低下懸念が和らいだことや堅調な輸出成約高等を受けて 4 ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、作付意向面積の増加予想と低調な輸出成約高等を受けて値を下げ、3 月末現在、4 ドル/bu 台半ばで推移。

4 月に入り、米国の期末在庫が下方修正されたことや米国の 90 日間の相互関税適用停止等を受けて 5 ドル/bu 台近くまで値を上げたものの、米国の順調な作付進捗やブラジルの生育に適した天候等を受けて値を下げ、4 月末現在、4 ドル/bu 台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移

● コメ：452 ドル/トン（前年同時期の価格：627 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2025 年 5 月第 1 水曜日の FOB 価格】

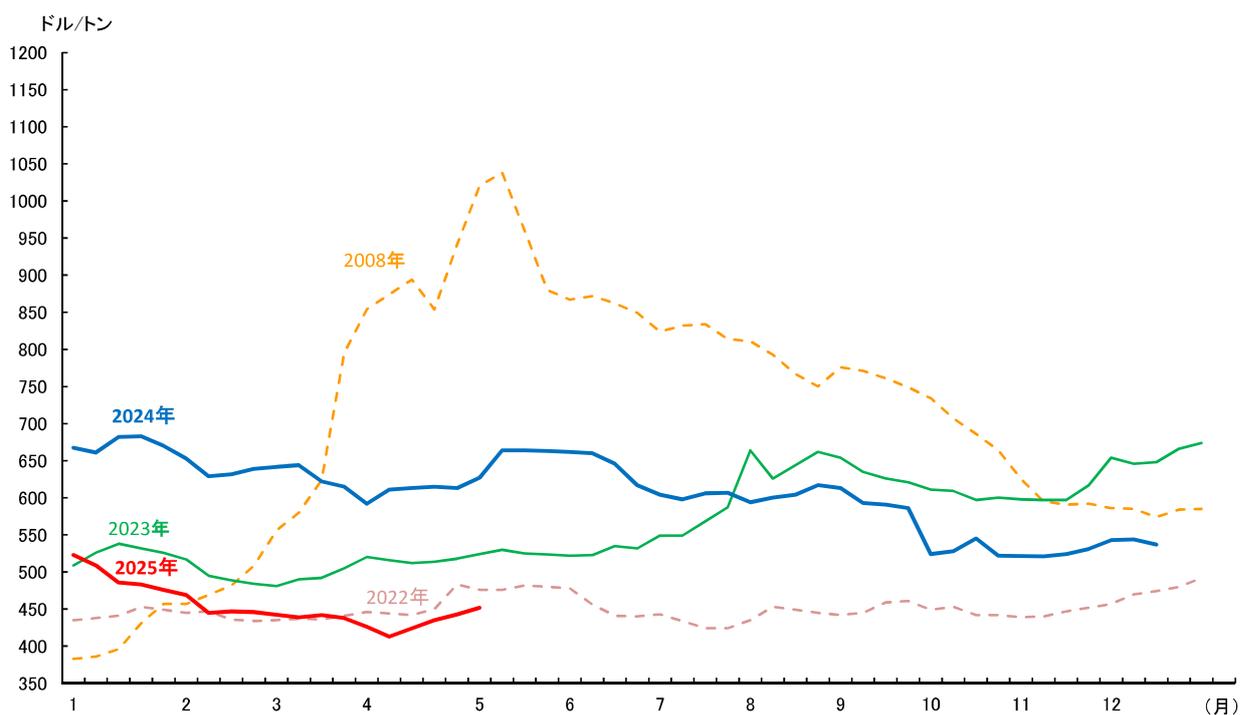
（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

コメは、12 月末、530 ドル/トン台後半で推移。1 月に入り、タイのバーツ安やアジア及びアフリカからの需要低迷を受けて値を下げ、1 月末現在、480 ドル/トン台前半で推移。

2 月に入り、タイのバーツ安やアジアからの需要低迷、アフリカにおけるインド産米等との競合を受けて値を下げ、2 月末現在、440 ドル/トン台半ばで推移。

3 月に入り、アジアからの需要低迷やインドにおける碎米の輸出再開等を受けて値を下げ、3 月末現在、430 ドル/トン台後半で推移。

4 月に入り、アジア及び南米地域からの十分な供給やアフリカにおけるインド産米等との競合を受けて 410 ドル/トン台前半まで値を下げたものの、米国の 90 日間の相互関税適用停止や為替市場におけるタイバーツの上昇等を受けて値を上げ、4 月末現在、440 ドル/トン台前半で推移。



● 大豆：10.49 ドル/bu（前年同時期の価格：12.02 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2025年5月第1週末のセトルメント価格】

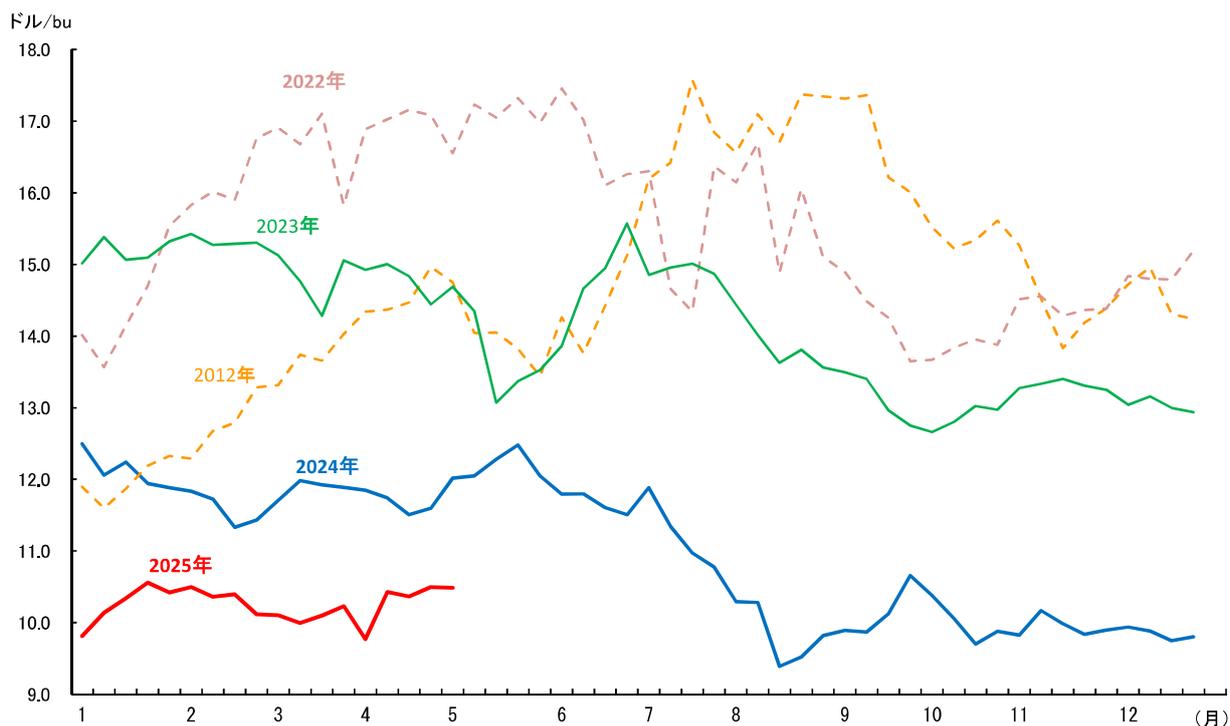
（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012年9月4日)）

大豆は、12月末、9ドル/bu台後半で推移。1月に入り、アルゼンチンの高温乾燥及び米国農務省需給報告での米国産の生産量引下げ等を受けて値を上げ、1月末現在、10ドル/bu台半ばで推移。

2月に入り、米国の対中関税の導入に対し中国が大豆への報復関税を実施せず米国産の需要低下懸念が和らいだこと等を受けて10ドル/bu台後半まで値を上げたものの、ブラジルの豊作見通し及び3月4日に予定されている米国の対中追加関税措置に対する報復関税に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて値を下げ、2月末現在、10ドル/bu台前半で推移。

3月に入り、米国の対中関税の導入に対する中国の大豆への報復関税の実施による米国産の需要低下懸念等を受けて9ドル/bu台後半まで値を下げたものの、2月下旬からの下げの反動等を受け一時的に10ドル/bu台前半まで値を上げた。その後、ブラジルの収穫進捗等を受けて9ドル/bu台後半まで値を下げたものの、バイオ燃料の混合率引き上げ報道に伴う大豆油急騰等を受けて値を上げ、3月末現在、10ドル/bu台前半で推移。

4月に入り、米国の関税措置による報復関税に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて9ドル/bu台後半まで値を下げたものの、米国の90日間の相互関税適用停止や米国農務省需給報告での大豆期末在庫量の下方修正等を受けて値を上げ、4月末現在、10ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セトルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
108.99	106.73	109.89	131.57	140.59	146.57	149.42	149.63	153.43	156.13	157.82
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
158.06	146.23	143.38	149.63	153.72	153.72	156.49	151.96	149.18	144.39	
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行: 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
45.01	38.28	65.79	60.71	48.61	51.39	50.39	54.74	53.56	54.31	53.28
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
53.50	53.27	49.11	46.72	43.00	40.71	40.33	40.41	42.37	43.29	
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

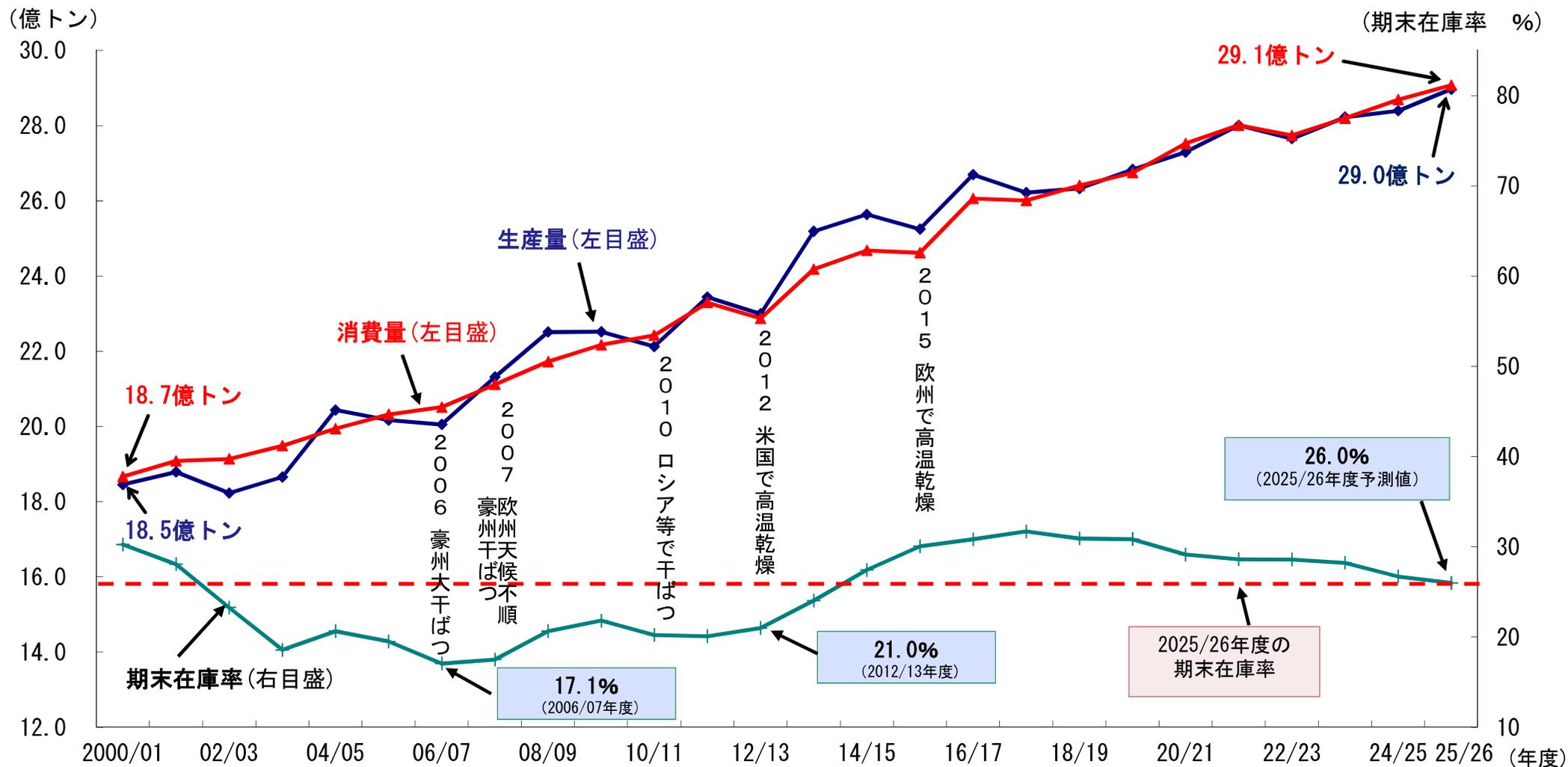
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
57.04	39.34	68.08	94.33	77.61	73.86	76.61	80.41	84.39	78.62	78.70
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
80.48	75.43	69.37	71.56	69.54	70.12	75.74	71.53	68.24	63.54	
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」。但し、2024年12月以降は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.0%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (May 2025)、 「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。